

本書は明治二十三年の文金港堂発刊の
講義録講義録普通教育普通教育に所載所載のものを
集めたるものなり

普

金港堂編輯所譯

第十九世紀之教育

全

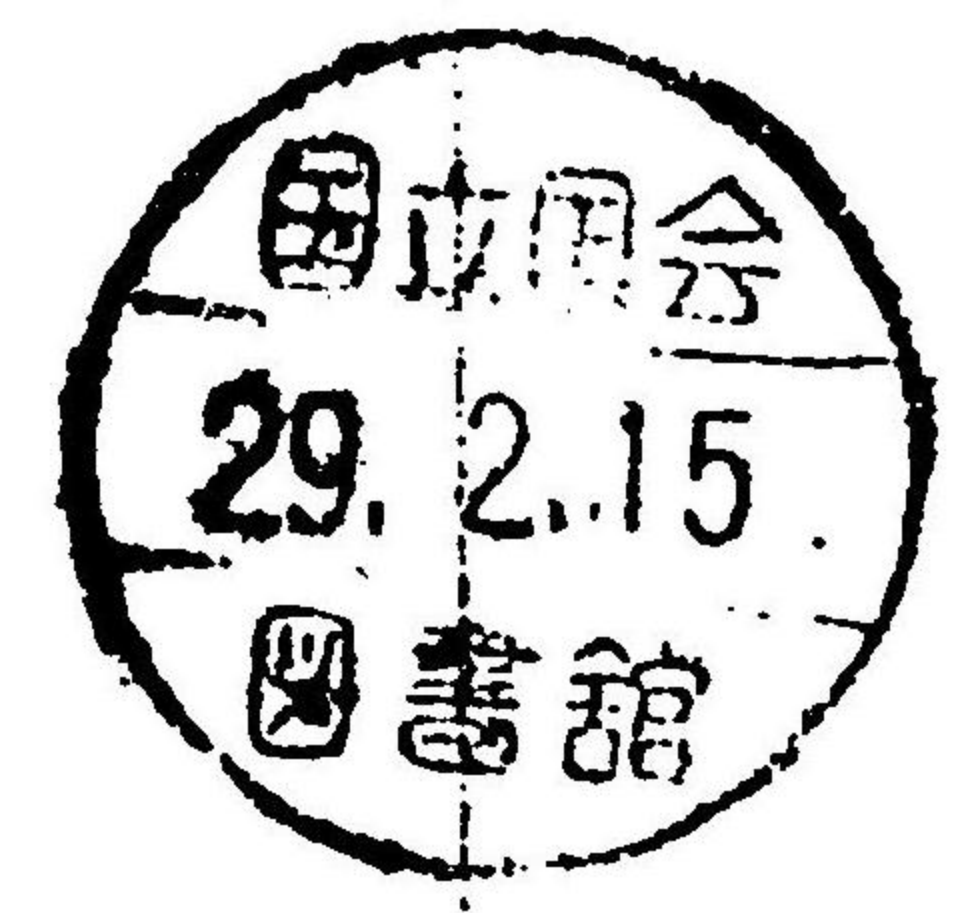
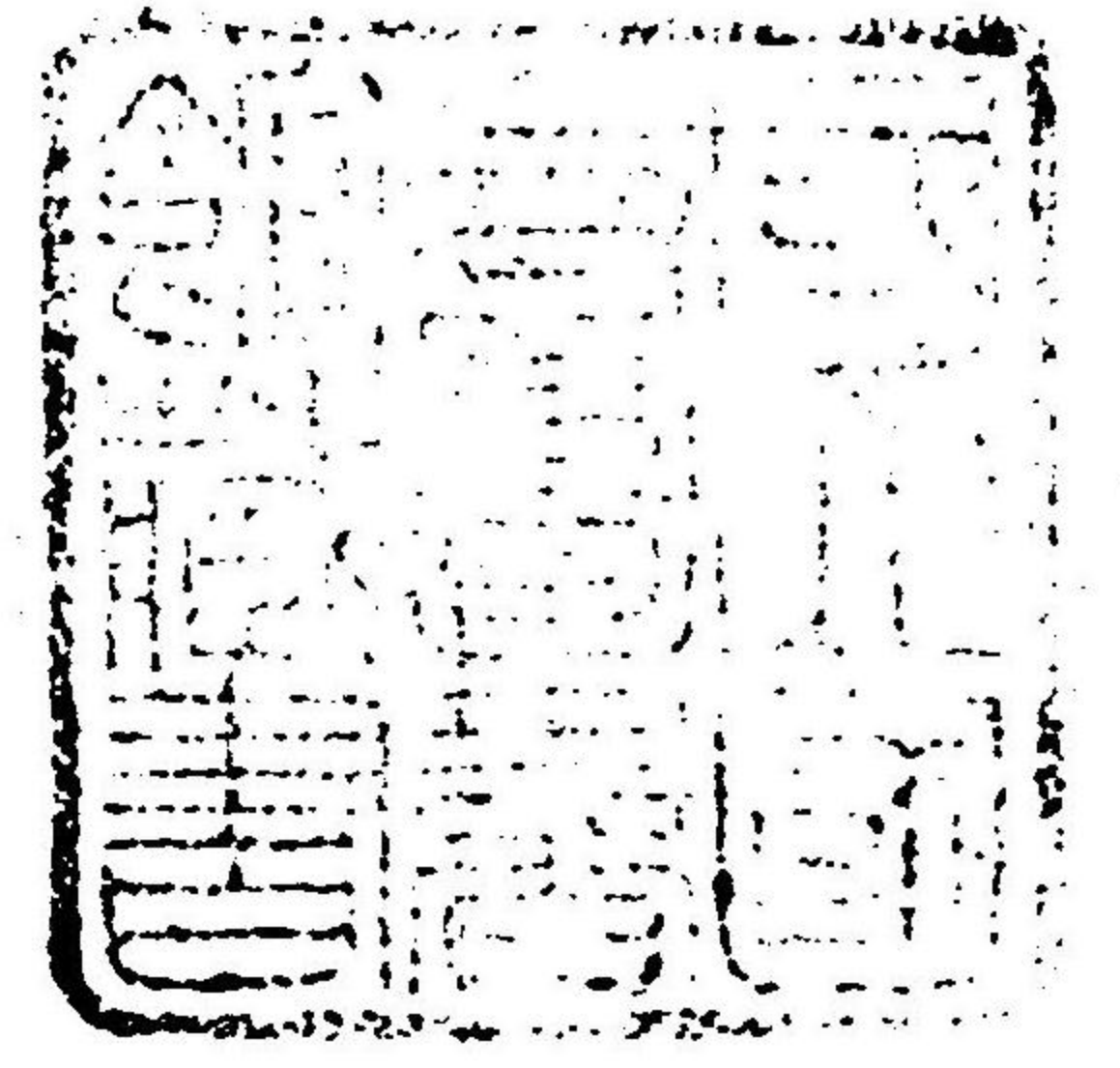
金港堂藏版

教

育

通

370.4
D18
K



319465

第十九世紀ノ教育。

目録。

第一 へねる、ぎらるど。……………一

第二 婦人教育者……………六

 まだむ、ど、げんり……………六

 え、つぢう、れるす嬢……………八

 はみるとん嬢……………八

 まだむ、あむばん……………一〇

 まだむ、ど、れむさ……………一一

 まだむ、ぎぞれ……………一二

 まだむ、ねつゝる、ど、そうする……………一四

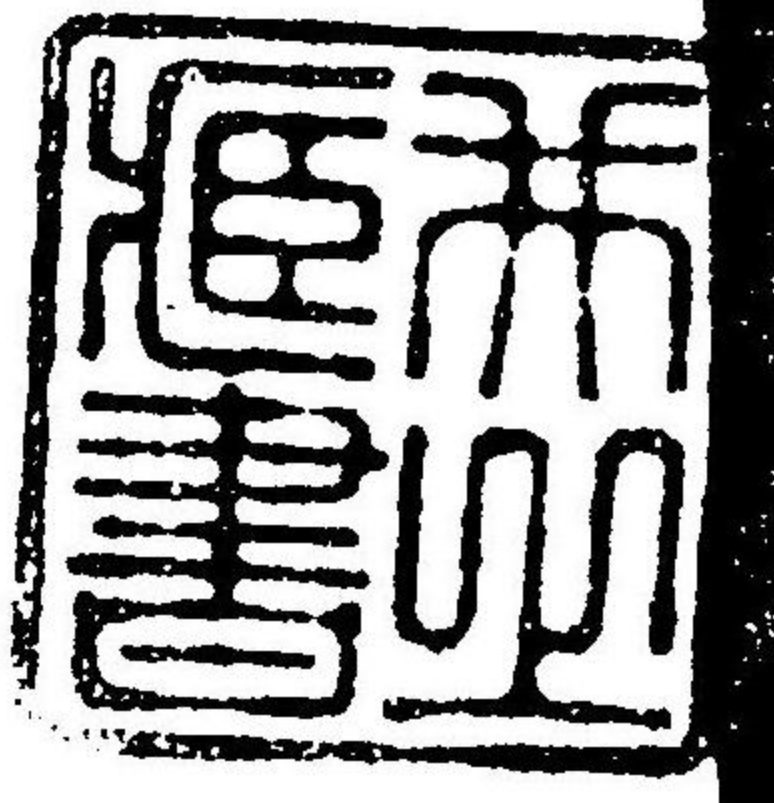
 まだむ、ば、かあふんてゐる……………一七

 其他ノ女子教育者……………一八

第三 十九世紀ノ教育論及其實用……………一八

 相互教授法ノ起源……………二二

目録



初等教授法ノ状態.....二四
 教育學者.....二六
 宏やこと.....二七
 をねがすと、こむと.....二七
 とばんろうぶ.....二九

第四 教育學.....
 日耳曼哲學者.....三一
 英國哲學者.....三一
 はわばあと、すべんさあノ書.....三三
 あれきさんだわ、べいん及其ノ教育學.....四二
 亞米利加ノ教育家、ちやんにんぐ.....四六
 はねれす、まん.....四七
 結論.....四八
 すべんさあ著教育論ノ批評.....四九
 以上.....

第十九世紀ノ教育。

本篇ハこむべいれい氏ノ教育史ニ就キ十九世紀教育ノ梗概ヲ譯述セシモノナリ。然ルニ本世紀ノ始メニ方リテ、新教育ノ基礎ヲ掀起セシベすたるつじ、ふれべる二氏ノ事績ヲ省畧セシ所以ハ、二氏ノ名聲夙ニ世ノ人口ニ膾炙セラレ、其ノ事業ノ如キハ業既ニ我が教育社會ノ詳了スル所タルヲ信ズレバナリ。

第一 べいん、ぎらると。

べいん、ぎらるとハ一千七百六十五年ふりぶるぐニ生ル、當時瑞西教育家ノ錚々タルモノニシテ、其名聲ベすたるつじ及ビふれべるノ下ニアリト雖、氏ハ教育家トシテ二氏ニ優ルノ準備ヲ有セシモノナリ、氏ハ初メ一學校ニ入り、古代典籍ノ修業ヲ終フルヤ、久シク同校ニ在リテ其專脩學科ノ教授ニ従事シ以テ教育上ノ經驗ヲ積メリ、而シテ其著作ヲ出スニ至リシハ晩年ノコトニシテ、充分其ノ理想ヲ確定セシ後ナリキ。即チ「國語ノ秩序的教授法」ト題スル書ヲ世ニ公ニセシ時ハ實ニ七十九歳ノ高齡ニテアリキ。此ノ書ハ練思熟考ノ結果ニシテ、又一生涯ノ事業ヲ蒐集シタル

モノナリ唯德育ノミヲ以テ教育全般ヲ組成セントシタリシハ氏ノ教育主義ノ欠點タリ。

氏ノ門弟子タリシ牧師ねびいるハ「公共教育學」ナル書ヲ著シ篇中ぎらるゝノふりふるぐ學校ニ於ケル巨大ノ功績ヲ贊稱セリ。

氏ハ教育上頗ル効果ヲ奏シタリシモ、一千八百二十三年遂ニ其學校ヲ退去セザルベカラサル不幸ニ會セリ、是レ職トシテせじゆいと徒輩攻撃ノ結果ニシテ、彼等ノ大學ノ一千八百十八年ニ於テ再置セラレタルハ蓋シ其因ヲナセシモノナリ。氏ハ衆人悼戚ノ間ニふりふるぐ去リテ、るせるんニ退キ、一千八百三十四年ニ至ルマデ此ノ地ニ留リテ哲學ノ教授ヲ事トシ、其後故郷ニ歸リ、隱遁閉居シテ餘生ヲ送り、専ラ教育書ノ著述ニ從ヘリ。然レドモ氏ハ未ダ其教育法ニ關スル著書ヲ公ニセザル前、業既ニ社會ニ知ラレシハ、其門弟殊ニ牧師ねびいるノ盡力ニヨリシモノナリ。一千八百四十四年ノ刊行ニ係ル氏ノ國語教授法ハ専ラ理論上ノ論議ニシテ、分ツテ四篇トナシ第一篇ニ於テハ母ガ其兒ニ談話ヲ教フル一般ノ通論ヲ講ジタリ、第二篇ハ思想ノ表彰ニ關スル國語ノ秩序的教授法ト題シ、言語ハ思想ト連結セザル

ベカラズ、故ニ文典ヲ教授スルニ當リテハ單ニ言辭ノ攻修ノミニ止マラズ、兒童ノ思考ヲ發育スルヲ要スベシトノ趣旨ヲ包藏ス。第三篇ハ智能ノ研磨ニ關スル國語ノ秩序的教授法ト題セリ。而シテ第四篇ハ心情ノ練習ニ關スル國語ノ秩序的教授法ト題シ、言語ノ教授ハ大ニ德育上ニ關係アル所以ヲ詳陳セシモノナリ。最後ニ國語教科ノ効用ト題セル部ハ書中ノ最モ見ルベキ所ナリ、是レ氏ガ實地事業ノ梗概ヲ明示セシ所タレバナリ。

ぎらるゝ曰ク「四人各協同シテ國語ノ教科ヲ組成セザルベカラズ、曰ク文典學者、曰ク論理學者、曰ク教育家、曰ク文學者即チコレナリ」ト。蓋シ文典學者ノ業務ハ言語ノ材料並ニ其適當ナル文法ヲ教フルニ在リ、論理學者ハ少年ノ智能ヲ研練スルニハ果シテ何ヲナスベキヤヲ指示スベシ。教育家ハ人ノ勤勉ハ愛ヨリ起リ、愛ハ思考ヨリ起ルモノナリトノ眞理ヲ服膺シ、之ヲ兒童ノ心根ニ銘セシメ、以テ彼ノ純精高尚ノ情愛ヲ養成セザルベカラズ。又文學者ハ言語ノ教習ニ關シ、之レガ規則ヲ示シ、以テ史談、書簡、對談等ヲ練習セシムベシト。

氏ハ規則ヲ擯斥スルモノニアラズ、蓋シ言語ヲ教授セントスルニハ大ニ之ニ依ル

所ナカルベカラズ、然レトモ、之ヲ小兒ニ指示スルニハ自ラ一定ノ法ト守ルベキ正當ノ媒介アリト論ジ、且文典ヲ教授スルニハ彼ノ文典學者ガ文典學ヲ組成スルニ用ヒタル方法ニ從ハザルベカラズトナシテ曰ク、原來規則ナルモノハ事實ヲ根據トシタルモノナレバ、最初兒童ガ無心ノ模倣ニヨリテナセシ所ノモノヲ明晰ニ了得セシメントスレバ主トシテ此ノ事實ニ憑ラザルベカラズ、成ルベク規則ヲ減少シ、練習ヲ増加スベシ。規則ハ抽象的ニシテ、興味ナキモノナレバ、假令兒童ガ充分之ヲ解得スルモ、之ガタメ悞樂ヲ感ズルコト能ハザルモノナリ、是ヲ以テ力メテ之ヲ減省スルヲ要ス。

氏ハ獨リ言語ニ止マラズ、凡百ノ教科ハ吾人ノ道德ヲ進奨スル所以ヲ信ゼリ。ねびいるノ言ニ曰ク、ぎらるるノ趣旨ヲ案ズルニ、家眷、社會、國家ニ於ケル愛ノ情款ヲ發達スルニ適切ナル問題ヲ精選スレバ、吾人ハ算術ニ由リテ獨リ小兒ヲ謹慎節儉ナラシムルモノニ止マラズ、進ンデ其ノ私欲ノ範圍ヲ脱シ、善良寛大ノ氣性ヲ養成セシムルヲ得ベシト信ゼシモノ、如シト。之ト全一ノ理ニヨリぎらるるハ地理學ノ研究モ道德心ヲ發育スル方便ナリト信ゼリ。

ぎらるるハ其ノ教育主義ヲ演ブルニ當リ、獨リ國語ノ秩序的教授法ヲ以テ足レリトセズ、一千八百四十四年ヨリ一千八百四十六年ニ至ルマデノ間ニ國語ノ實地教授法ニ關スル四卷ノ書ヲ著シテ、其教育主義ノ適用ヲ明カニセリ。氏ハ篇中教育ト教授トノ區別ヲナサズ、其目的トスル所ハ兒童ニ國語ヲ練習セシムルト同時ニ其道德心及ビ宗教心ヲ發育セシメントスルニ在リ。今少シク此ノ書ノ趣旨ヲ畧述スル所アラントス、曰ク、文典學ニ於テ最初攻習スベキハ即事物ナリ、兒童ヲシテマツ人物獸類等常ニ彼等ノ能ク知ル所ノモノ、名稱ヲ唱ヘシメ、之ニ因リテ普通固有ノ名詞ト其性其數トヲ知悉セシメ、次ニ事物ノ智徳躰ニ關スル性質ヲ審ニシ、由リテ以テ之ヲ形容スルノ方法ヲ了得セシムベシ、就中尤注意スベキハ兒童ヲシテ事物ヲ指名セシムルノ際、此ノモノハ是ナルカ將タ非ナルカトノ斷決力ヲ養成セシムルコトナリ、實地ニツキテ形容詞ト名詞ノ連結ノ方法ヲ指教シ、小兒ヲシテ名詞ニ形容詞ヲ適用セシメ、以テ自ラ之ヲ練習セシムルヲ要ス。ソレヨリ命題ヲ組成スル所ノ原素ヲ教ヘ、充力之ヲ攻習セシメテ遂ニ働詞ヲ研修セシムベシ。但シ最初單純命題ヲ授クルニ方リテハ、確定、不定、命令ノ諸命題ヨリ始メ、區限的連續的命題ノ

如キハ之ヲ後日ニ讓ルベシト。

ざらるゝノ教育上ニ及ボセル影響ハ獨瑞西ノミニ止マラズ、遠シ外國ニ波及シ、特ニ伊國ニ於テハあつべからむふるしに、ゑりんこめゆる等其論旨ヲ擴メ、甚シキニ至リテハざらるゝ主義ノ機關トシテ雜誌ヲ發兌スルニ至リキ。佛國ニ於テめしゑるハ實地教育雜誌ヲ發行シ、らべゑハ種々ノ書ヲ著ハシ、以テ此ノ瑞西教育家ノ主義ヲ普及セシメンコトヲカメタリ。

第二 婦人教育者。

十九世紀教育ノ一特徴ハ女子教育ノ益進歩スルノ一事是レナリ。本世紀ノ初メニ當リ、佛國ニハ尙ホ初等女學校ノ設ケアラザリキ。蓋シ教育史上ヨリ云フトキハ十九世紀ハ婦人教育者ニ乏シカラズト云フベシ。

まだひど、げんり(一千七百四十六年生
一千八百三十年死)

其教育上ノ著作ヨリ言ハ、まだひどげんりハ十九世紀ニ屬スルモノニアラズト雖、近代ノ女子教育家ヲ列記スルニ當リテハ、第一女史ヲ舉ゲザルベカラズ。女史ハ教育事業上頗ル高尚ノ地位ヲ占ムルモノナリ。一般ノ婦女子ハ人形ノ母ヲ以テ任

ズルヲ常トスト雖、女史ハ之ニ反シ、其齡七歳ノ頃ヨリ早ク既ニ教師タルノ職分ニ就ケリ、其ノ言ニ云ヘルアリ、曰ハク、予ハ兒童教授上ノ意向ヲ備フルモノニシテ、偶然ノコトヨリ遂ニ學校教師トナリタルナリ、……曾テ村ノ兒童ガ常ニ吾ガ父ノ別莊ノ窓下ニ來リ戯レ遊ビシヨリ、予ハ彼等ニ注目スルヲ好ミ、終ニ之ニ教科ヲ授ケンコトヲ決心セリ。爾後二十年ヲ經テ女史ハしやあどる公爵家ニ備ハレ、其ノ子女ノ教養ヲ委托セラレタリ。

女史ノ著書中其ノ重ナルモノハ一千七百八十二年ノ刊行ニ係ル「教育上ノ書簡」ト題スル書ニシテ、コハ王族ノ教育及ビ一般士人ノ教育ニ就キテ論述セシモノナリ。蓋シ女史ハるるうそウト競争シ、ゑみる及ビるふ、い等ヨリ一層完全ノ教育ヲ受ケシメンコトヲ企望セシモノ、如シ、又、皇太子教育ニ關スル忠言「女教師ノ教科」等ノ書ヲ著シ、王者ニ向テ人民ヲ愛育セザルベカラサル所以ヲ説キ、自ラ稱シテ人民一般ノ教育ニ盡力シタル最初ノ著者ナリト云ヘリ。即チ「教育ノ劇場」第四卷ニ女史自評ノ言アリ、曰ハク、是レ主トシテ商工ノ子弟ノタメニ述作セシモノニシテ、婢僕農夫等モ亦之ニ因テ其ノ義務職掌ノ如何ヲ審ニスルヲ得ベシト。

え、つちう、おるす嬢 (二千七百六十七年生
二千八百四十九年死)

蘇格蘭哲學特ニリいと及だがるとすてわあど等ノ心理説ヲ奉ジ、十九世紀ノ始メニ於ケル英國ノ教育ヲ尊重ナラシメタル有名ナル二婦人アリ、え、つちう、おるす嬢はみるどん嬢即チ是レナリ。

え、つちう、おるす嬢ハ一千七百九十八年、實地教育學ト題シ、理論的ニ傾カズシテ主トシテ事實、觀察、教訓ニ關スル書ヲ公ニセリ。其第一章ニ於テ兒童ノ翫弄物ニ就キテ論ジ、其ノ教授ノ如キハ談話ヨリ初メ、發意的、分析的、直覺的ノ方法ニヨリ生徒ノ心裡ヲ鍛練センコトヲ力メタリ。而シテ女子ノ智育ニ關スル所見ノ如キ、頗ル觀ルベキモノアリ。又德育ニ關シテハ、ろ、つくと同説ニシテ、宗教的感情ヲバ全ク之ヲ認了セザリキ。

はみるどん嬢 (二千七百五十八年生
二千八百十六年死)

はみるどん嬢ハえ、つちう、おるす嬢ニ比スレバ一層哲理宗教ニ傾キタルモノナリ。又觀念ノ伴生ヲ以テ教育ノ基礎トナシタルガ如キハ、心理學者はあどれいノ主義ヲ奉ジタルニヨルト雖、女史ハ常ニ予ハ福音ノ教理ヲ除キ、他ニ憑ルベキモノヲ有

タズト明言セリ。

女史著述ノ主ナル書ハ一千八百一年ノ刊行ニ係ル、教育ノ原則ニ關スル書簡ト題ス、え、つちう、おるす嬢ノ書ニ比スレバ一層理論的ナリ、書中だがるとすてわるとノ説ヲ藉リ以テ教育ノ目的ヲ説明シテ曰ハク、教育ノ大目的ハ第一吾人本性ノ諸原素ヲ完成シ、第二幼稚ノ時心裏ニ受クル所ノ感覺及ビ伴生ヲ看護シテ弊惡ニ陥ルヲ防ギ、以テ成ルベシ真理ノ方向ニ近ツカシメンコトヲ勉ムルニアリト。又智徳ノ能力ヲ研究スルニ方リテ女史ハ觀念伴生上ノ原則ニ依レリ、其ノ論旨ニ曰ハク、凡テ吾人ノ欲望ハ快樂ノ觀念ト相伴ヒ、嫌惡ハ苦痛ノ觀念ト相伴フモノナルヤ瞭然タリト。

是ニ由テ之ヲ觀レバ、教育家タルモノハ兒童及ビ大人ノタメニ善良ニシテ且ツ必須ナルモノヲ快樂ノ觀念ト相伴生セシムルヲ要ス。女史又論ジテ曰ハク、願フニ從來教育書ノ著者ハ、高貴ノ人又富榮ノ人ノミ教育ヲ必要トスト信ゼルモノノ如シ……予ガ目的トスル所ハ全ク之ニ反シ、一般人民ニ普通ナル能力ヲ訓練セントスルニ在リト。此点ニ關シテハえ、つちう、おるす嬢ト同一ノ持論ヲ有セシナリ。

まだむ、かむばん(一千七百五十二年生
一千八百二十二年死)

女史ハ初メるい第十五世ニ任ヘ、又せんどせるまん學校ニ於テ親シク教授ニ從事シ、爾後一千八百七年なばれをん第一世ノ依囑ヲ受ケテ悉こるん學院ノ長トナリ、前後二十五年ノ久シキ實地ノ經驗ヲ積ミタリ。女史常ニ語リテ曰ハク「予ハ先ヅ目ニ視次ニ考察シ、而ル後筆ヲ取ルヲ常トスト。女史又特ニ人ノ母タルモノニ教育ヲ授クルノ必要及ビ鴻益ヲ述ベテ曰ヘリ、女子教育ノ目的ハ人ノ母タルモノヲ造成スルニアリト。又曰ハク、如何ニ規律ノ整頓シタル塾舎ト雖、如何ニ制度ノ神聖ナル寺院ト雖、少女ヲ教育スルニ方リテハ遙ニ教育アル母其人ニ劣ル、是レ母タルモノハ我ガ女ノ教育ヲ以テ最モ愉快ナル職掌ト思考シ、之ニ従事スルヲ眞ノ名譽ト考フルガ故ナリト。

女史ノ常ニ敬畏セシ學者ハふ、ねるんニシテ、又他ノ一方ヨリ觀察スルトキハ悉こるん學校ノ組織ハせんどしるる(十七世紀ノ女學校)ノ組織ヲ模倣シタルモノナルヲ知ルベシ。サレバ十七世紀ノ氣風再ビ十九世紀ニ興發シ、女史ハまだむとまんてのん(十七世紀ノ婦人教育家事業ヲ嗣續シタリシモノ)ノ如シ。然レドモ其教授法

ニ至リテハ頗ル進歩シタル所アリキ。女史曾テなばれをん帝ニ書ヲ送リテ謂ヘルコトアリ、凡ソ教育ノ目的ハ第一家庭ノ徳行ヲ脩メ、第二各人其ノ子女ヲ教フルニ不足ナキ程國語、算術、歴史、習字、地理、等ヲ練習セシムルニアリト。

人或ハ女史ガるい第十五世ノ息女三人ノ教養ニ任ジ、専ラ富貴ノ人ニ交ハレルヲ見テ、一般教育ノコトヲ思考スルノ時ヲ得ズ、又之ニ對シテ趣味ヲ有セザルナラント信ズルモノ多カルベシト雖、其著、少女ニ對スル忠言ニ「富家ノ女子ハ由テ以テ學ビ、由テ以テ教ヲ受クル所ノ書籍ト教師ノ欠亡ニ若シムノ憂ヘナシト雖、下等社會ノ兒女輩ハ大ニ然ラザルナリ、……予ハ親シク僻村ニ於ケル女兒ノ教育頗ル不完全ニシテ疎慢ナルコトヲ目撃セリ、……予ガ筆ヲ執リテ此ノ一小冊子ヲ著セシハ専ラ彼輩ノタメヲ圖ラントスルニ在リ」云云ノ言ニヨリテ、其然ラザル所以ヲ曉ルベシ。

まだむ、ど、れむさ(一千七百八十年生
一千八百二十一年死)

まだむ、ど、れむさハ、女子教育論ノ著者トシテ其名頗ル高シ。女史ハ女子教育ハ男子教育ト等シク、嚴肅莊重ナラザルベカラザル所以ヲ解ケリ。又其卓絶ナリト稱スベ

キハ、思想ノ哲學的ナル所ニアリ、即チ良心ヲ以テ壓抑的ノ命令ニ易ヘント欲シ、女子ヲ教導指揮スルニ、斯クナスベシトノ命令上ノ語ヲ用ヒズシテ、斯クナサザルベカラザル義務アリトノ義務上ノ語ヲ用フベキ所以ヲ論ゼリ。案ズルニ女史ノ意タル兒童ハ自由ナルモノトシテ之ヲ取り扱ヒ、教育上巧ニ此ノ自由ヲ利用セザルベカラズ、又管理者ナキトキハ兒童ヲシテ自ラ己ヲ管理セシメ、常ニ其意志ノ欲スル所ニ從ハシメ、斯クシテ意志ヲ發育シ、氣質ヲ強壯ナラシメントスルニアルモノノ如シ。

まだむぎどね(一千七百七十三年生
一千八百二十三年死)

まだむぎどねハ初メばうりん、とめらんと稱シ、一千八百十二年ぎどねニ嫁セリ。著ス所種々ノ小説類アリ。女史ハ専ラ倫理及德育上ニ其思想ヲ傾ケ、主トシテ此般問題ニ關スル書ヲ著セリ。即チ「小兒論」らるる及びくどるアリ、就中「教育ニ關スル家事上ノ記録」ノ如キハ女史一代ノ傑作ナリ。

此ノ書篇中ニ往々哲學上ノ理論ヲ包藏ス、第十二章ハ兒童ノ罪ナキ所以ヲ論ジ、之ヲシテ惡シカラシムルモノハ其欲望ニ非ズシテ規律ノ不整頓ニアリトノ理由ヲ

解ケルモノナリ。

次ニ吾人ノ女史ヲ敬重スルノ理由ハ他ニアラズ、一般ノ考察及哲理的反省ニ富ミ、尙實驗、觀察、詳細ニシテ、教育上ノ確説トナスニ足ルモノ多キニ由レリ。人ノ幼時ハ他日ノ命運ヲ定ムル時期タルヲ以テ、此時ノ教育ハ最重セザルベカラズトナシテ曰ク、此等不完全ナル機關、是等不充分ナル智識ノ中ニ、他日或ハ惡トナリ、或ハ善トナルノ萌芽ヲ含有ス、吾人ノ生涯中受得スル所ハ統テ小兒ノ際ニ得タル所ニ由來ス、是ヲ以テ幼稚ノ頃得了セル印象ハ一トシテ成人後ノ意氣ヲ左右セザルナシト。女史ノ實理說ハまだむぎどね、れむさ及まだむぎどね、ね、かる、と、そうする等ノ所見ニ更ニ一歩進メタルモノナリ、而シテ稍るうとらニ似タル所アリ。女史ハ小兒ニ宗教ノ定説ヲ示教スルノ前ニ、必ズ先ヅ、天神ノ理說ヲ了ラシメ、道德ヲ以テ義務ノ基礎トナシ、義務ヲ以テ完全ナル教育ノ根據トナサントスルモノノ如シ。

又ち、ばん、と、ね、む、さ、る、の、説ニ係ル兩親ノ命令ト軍事ノ命令トノ區別ヲ論ジ、前者ハ道理ヲ以テ其基トナスト雖、後者ハ壓抑ニ過ギザルヲ以テ、女兒ノ心裏ニ道理及ビ自由ノ精神ヲ憤起セシメント欲セバ、必ズ前者ニ依ラザルベカラザルコトヲ公言

セリ。又、一人、一己ノ私利ヲ擯斥シテ賞與褒典ハ教育ノ眞主義ニ違背ス^トノ説ヲ持セリ。

まだひ、ね^そつかる、ど、み^そうする(一千七百六十五年生、一千八百四十一年死)

まだひ、ね^そつかる、ど、み^そうする(一千七百六十五年生、一千八百四十一年死)ト同ジク教育上ノ大著作ヲ出シテ佛國文學ニ光華ヲ添ヘタリ。女史ノ「進歩的教育」ハ其主意ノ高尙ナル、其目途ノ尊大ナル点ニ於テ、殆ド彼ノ「ゑみゐる」ト伯仲スルモノナリ。蓋シ女史ノ所見タル、多少ノ欠點ナキニアラズト雖、教育事業上大先導者タルニ於テハ妨ゲナシ。女史ハ能ク精靈ヲ訓練シ、之ヲシテ最モ高貴ノ性氣ヲ有セシメンコトヲ勉メタリ。加フルニ宗教ニ熱中シ、信仰ノ恭順ニ哲理ノ毅氣ヲ交ヘシヲ以テ、基督主義ノるうそ、トシテ見ルコトヲ得ベシ。

女史ノるうそ主義ヲ奉ゼルコトハ事實ナリト雖、常ニ之ニ雷同セシモノニハ非ズ。るうそハ人ハ善ナリト論セシモ、女史ハ惡ナリト解キ、教師ノ第一ノ職務ハ之ヲ改革シ、之レガ陷溺ヲ救済スルニ在リ、人生ノ目的トスル所ハ幸福ニ非ズ、改良ニアリ、又教育ハ宗教ヲ以テ根據ト定メザルベカラズト論ゼリ。

女史ガ其著書ノ原則トセシ智能ノ發育ニ段階アルノ論ハ、即チるうそヨリ引用シ來リシ説ニシテ、兒童ハ感覺ト欲望トノ二者ニヨリテ生活スル所以ヲ信ズルモノナリ。又兒童ノ生涯ニ特異ノ時期アリテ、教育ハ其年齢ノ度ニヨリ、各一種ノ定規ニ從ハザルベカラズト論ゼリ。然レドモ其説ニヨレバ、兒童五歳ニ至ルハ万般ノ智能ヲ有スルモノトナシ、彼ノ「ゑみゐる」ノ如ク無智暗朦ノ動物ニ非ズ、肉體ト精靈ヲ具備スル一ノ完全ナル人類ナリ、故ニ之ニ適應スベキ教育ハ此ノ二元ヲ認メタルモノナルベシトナス。

又女史ハるうそノ如ク天化ニ委スルノ放任教育ニ同意セズ、教師タルモノハ本能的、反省的、又自愛的、他愛的等、凡テ意志ニ影響ヲ及ボス所ノ動機ニ訴フル所以ノ途ヲ知ラザルベカラズト説ケリ。之ヲ要スルニ女史ハ彼ノ活動教育ト受動教育トノ中間ヲ擇ビ、之ヲ一己ノ持論トナセシモノ、如シ。

女史ノ著述ニ係ル進歩的教育學ハ、三卷ノ書トシテ一千八百三十六年ト一千八百三十八年ノ兩度ニ出版セラレタリ。本書初メノ三篇ニ於テハ幼者靈能ノ發達ヲ論シ、第四篇ニハ學生ノ年齢如何ニ拘ラズ、専ラ教授上ニ關スル普通ノ法則ヲ解キ、第

五篇ニハ兒童ノ五歳ヨリ七歳ニ至ルマデ第六篇ニハ十歳ニ至ルマデノコトヲ論ジ第七篇ニハ兒童ノ性質ト智能發達ノ間ニ區別アル所以ヲ辨シ、最後ノ篇ニ於テ女子生涯ノ教育ヲ解説セリ。

女史ハ通常教師ノ等閑ニ付スル意志養成ノ件ニ最モ注意セリ、其言ニ曰ハク「法律上ノ從順ハ人ノ意志ヲ抑制スルモ之ヲシテ柔懦ナラシムルモノニアラズ、然レドモ人ニ隨從スルトキハ、大ニ之ヲ害シ、之ヲ弱ムベシ、皮相形容ノ教育ヲ棄テ、靈魂ニ關スル内部ノ教育ヲ重ンゼサルベカラズ。小兒ヲ教育スルニハ内部ヨリ之ヲ育養スベシ、是レ堂々タル一個ノ男子ヲ生成スル所以ナリト、女史ハ主トシテ活動力ヲ教養スルコトニ盡力セント雖、思考能力トテモ亦之ヲ放擲セシニ非ズ、意志ニ次ギテ想像心ノ涵養ニハ殊ニ其注意ヲ向ケタリ、而シテ女史ノ女子教育ノ主義ニヨレバ、小女ノ結婚ハ宜ク其ノ氣質開發シ、智識具ハルニ至ルヲ待テテ之ヲ決行スベシト云フニ在リ、換言スンバ女子タルモノハ十分ノ教育ヲ受ケ、社會ノ義務ヲ了シ、母タルモノ、職掌ヲ解シ、其ノ子女ニ對シ家庭ノ教師トナリ之ヲ教訓シ得ルニ至リテ始メテ嫁スルコトヲ得ベシト。

まだむばば、あふんてゐる(一千八百七十五年生、一千八百七十八年死)

女子ハ實地家ナリ、始メ其ノ故郷ふれしゑ市及ヒまゐり市ニ於テ教授ノ業ヲ執リシ後、一千八百四十六年、幼稚學校管理論ト題スル書ヲ公ニセリ。又一千八百四十七年、巴里府ニ於テ女子師範學校ヲ開設セシガ、此ノ校ハ翌年公立學校ニナサレ、一千八百五十二年實業幼稚學校ト改稱セラレタリ、女史ハ二十七年間同校ニ在リテ其ノ教育主義ヲ實際ニ適用シ、一千五百名餘ノ學生ヲ教養セリ、而シテ此輩ハ實ニ佛國及諸外國ニ女史ノ教授法ト其理想トヲ廣メタルモノナリ。女史ノ著述中「幼稚學校管理法」、「實物上ノ談話及教課」、「そるばんニ於ケル教育上ノ討議」、「母子ノ讀書及事業」、「教育全科」、「五官ノ教養及ヒ其教育上ノ適用」ノ六種ヲ重ナルモノトナス。

女史ハ實物教授法ヲ主トスルモノニシテ、之ヲ化學、理學、文典、地理或ハ論理學ニ適用セントセリ。兒童ヲ教育スルハ其ノ智覺發達ノ順序ヲ追フテ之ニ伴隨セザルベカラズ、即兒童ノ第一ニ着目スルハ色彩ニシテ、ソレヨリ其ノ形成ヲ認識シ、次デ其ノ材質及ビ生出法ヲ辨知ス、實物教授ノ進歩ハ兒童好奇心ノ自然發育ニ隨フベシ

トハ女史ノ教育主義ナリ。

其他ノ女子教育者。

今日女子教育ノ隆昌スルニ至リシハ果シテ何等ニ起因スルヤ、蓋教師タリ、教育家タルニ足レル伎倆ヲ有セシ女流ノ輩出ニ基ヅカズンバアラズ、即チ上來枚舉セシ外しえろウニ教育會ヲ設置セシそウバン嬢アリ、女子教授論ノ著者まだむ、めいそよゆぶアリ、又男子ニシテ女子ノ教育ニ力ヲ致セシモノ、尠ナカラズ、ろるまん氏れびあるばあれ氏、えいめ、まあたん氏ノ如キ即チ是レナリ。

司教とばんるうぶノ如キハ女子教育上ノ問題ヲ研究セシ點ニ於テ、ふ、えねるんと並ビ稱セラレ、モノナリ。氏ノ著書中「女子教育書」ト題スルモノ最著明ナリ。此ノ書ハ氏ノ死去セシ一千八百七十九年後ニ初メテ世ニ公ニセラレシモノニシテ、第一教育ノ原則、第二少女教育論、第三獨修論ノ三篇ヨリ成ル。然ルニ氏ノ期セシ處ハ自ラ明言スルガ如ク、専ラ中等社會ニアリテ、其ノ方法、其ノ論旨、共ニ十七世紀ノ遺物ニ過ギズ、現在社會ノ實用に通セザルハ太ダ遺憾トスル處ナリ。

第三 十九世紀ノ教育論及ビ其實用。

心理學ノ事實ト科學ノ原則トニヨリテ教育法ヲ組織シ、教授法ヲシテ之ニ據ラシメ、從來寺院ノ掌握ニ歸セシ教育管理ノ權ヲ恢復シテ、之ヲ國家又ハ社會ニ托シ、兒童ノ管理ハ専ラ之ヲ家庭ニ委テ、熱心以テ教育ノ成果ヲ收メ、一般人民ヲシテ之レガ利益ニ與カラシメントスルハ即十九世紀教育ノ特質ナリ。斯クテ教育ハ一般ノ注意ヲ惹ク所ノ一大社會問題トナリタリ。本章ニ於テハ十九世紀教育上ノ運動ニ關シ、其ノ大要ヲ採録スル處アラントス。

革命後教育ニ向テ盡力セシ處、尠カラザリシモ、佛國ノ公共教育ハ本世紀ノ當初微微トシテ振ハザルノ狀況アリキ。一千八百一年學制ノ規定ヲ評議セシメンガタメニ開キシ議會ニ於テ、國立大學創立ノ件ヲ議決シ、且古昔ノ宗教々會ニ於ケルガ如ク教師學士輩ハ互ニ協同一致ヲナサルベカラサル所以ヲ切論シ、主トシテ教育制度ノ一致ヲ欲シ、國家ノ統轄ニ任スル官立教育法ヲ定メント勉メタリ。

ふうるくろいハ教育ニ關スル國家ノ權利ヲ充分承認セザリシト雖、あぶむすみすノ如ク全ク之ヲ私設ニ任スベシトノ持論ヲ有セシニモアラズ、但小學校ノ組制ヲバ之ヲ社會ニ委シ、其ノ教師ハ町村長或ハ町村會議員之ヲ選擇任命スベシト論斷

セリ。蓋シ小學教育ハ一般人民ノ要スル所ナレバ、其ノ事務ハ全般ニ委囑スベシトスルニアルモノナリ。然レドモ氏ハ大ニ其ノ見解ヲ誤リタリ、何トナレバ佛國ニ於テ國家ノ熱心ナル關涉アリテ始メテ小學教育ノ普設ヲ見タレバナリ。

一千八百六六年五月十一日制定ノ法律ハ、一千八百八八年三月十七日及一千八百十一年ノ布告ニヨリテ初メテ其ノ効力ヲ有スルニ至リ、純然タル國立大學ノ創設ヲ見タリ、斯クシテ教育ハ司法軍制等ノ如ク、一ノ國家事業トナリ、教育ノ獨立自治ト稱スルモノハ斷然地ヲ拂ヒ、該大學ハ國家ノ教育ヲ監督スルノ大權ヲ握ルニ至レリ。其ノ制ニ曰ハク「帝國大學ノ委員或ハ大學部ノ一分科ヲ卒業スルモノニ非ザレバ學校ヲ開校シ、或ハ公然教授ヲナスヲ得ズ」ト。又曰ハク「凡ソ大學外ニ一學校ヲ開クヲ得ズ、或ハ其ノ監督ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ設置スルヲ得ズ」ト。大學ニ斯カル特權ヲ付與セシヲ以テ、全國ノ學生ハ盡ク之ニ蟻集セリ、而シテ父母ハ恰モ其ノ子ヲ政府ニ奪ヒ去ラルルノ思ヒヲナシテ、之ヲ取り返サント試ミタリトハしやどらぶりおんノ痛言ナリ。

此ノ帝國大學ニ於テ、教育ノ基礎トセシ處ハ天主教ノ教義ト、奈翁ノ創立セル帝政ニ向テ忠實ナルコトニテアリキ。ぎざお曾テ之ヲ評シテ曰ハク「奈翁ハ文明ノ中心トナルベキ學校ヲ以テ壓制ノ機關タラシメントセシモノナリ」ト、而シテ奈翁ハ小學教育ニ向テ少シモ注目スル所ナカリキ。

相互教授法ノ起原

英國人らんかすどる及ビべるノ二氏ハ所謂相互教授法ヲ按出セリト云ハル、ト雖、二氏ハ實際之ヲ發明セシニアラズ、之ヲ普及セシメタルモノニシテ、印度ヲ除ケバ始メテ之ヲ實行セシハ實ニ佛國ナリト云ハザルベカラズ。即チまだむとまんでのん、ろらん、らさる、べすたる、つじ等コノ法ヲ採用シ、且ツ多少之ヲ擴布セリ。十八世紀ニ於テハはうるぼると之ヲらびていノ病院（一千七百四十七年）ニ於テ、せばりゑ、ぼおれハバんしいん（一千七百七十四年）ニ於テ之ヲ施行シ、又一千七百九十二年佛人あつべ、ごれるてえハ彼ノべるニ先チ印度ヨリ之ヲ倫敦ニ輸入セリ。

佛國ニ於ケル相互教授法ノ効果ヲ云ハンニ、一千八百六十七年ノ交ニ至ルマデ巴里ノ諸學校ニテ實施セラレシヨリ、此ノ法ハ同國ニ於テ非常ノ信用ヲ博セリ。特ニ王政恢復ノ際ニ在リテ、各處ニ流行シ、世人殆ト之レガタメ狂セントセリ、故ニソノ

効果モ亦尠少ナラザリキ。而シテるねやるこらるど、らいすね、でけす公、ばすきゑ候
等當時有名ナル士人ノ稱賛ヲ得タルガタメニ、此ノ教授法ハ自由黨ノ旌旗トナリ
政治思想ト相混同スルニ至レリ。之ニ反シテ天主教學校ノ舊教授法ヲ守ルノ徒ハ、
相互教授法ハ大人ニ歸スベキ權利ヲ小兒ニ委シ、大ニ社會ノ秩序ヲ紊亂スルモノ
ナリトテ痛ク之ヲ論難セリ。サレドモ此ノ教授法ニ左袒セシ人々ハ熱心ニ之ヲ辯
護シ、道徳上又經濟上實利實益ヲ與フル尠カラズトナシテ曰ハク、聖經ハ吾人ニ教
フルニ相互ニ愛スベキ所以ヲ以テス、是レ相互ニ教フベシトノ原則ニアラズヤト。
斯クテ練習及ビ生徒ノ過失ヲ制止スルコトニモ此ノ相互主義ヲ適用シ、時ニ或ハ
學校ヲシテ恰モ罪人ヲ審問スルノ裁判所ニ化セシムルノ趣アリキ。但教員ノ欠クル
時ニ或ハ教育上ノ資力ノ乏シキ時ナドニハ殊ニ大ナル利便アリシナリ。茲よまると
ノ計算ニヨレバ通常ノ方法ニテ三万ノ兒童ヲ教授スルニハ四千五百万ふらん以
上ノ費用ヲ要スト云フ、サレドモ相互教授法ニヨレバ、こむど、どらぶるとノ云ヒシ
如ク、唯一人ノ教師ニテ千人ノ生徒ヲ教フルコト、舊法ニヨリ三十人ノ教員ニテ之
ヲ教フルヨリハ容易ナリ、故ニ毎年政府ヨリ一万ふらんヲ支給スレハ十二年間ニ

テ一般貧民ノ子弟ヲ教育スルコトヲ得ベシ。
更ニ相互教授法ノ弊害ヲ云ハン。此ノ法ニヨレハ主トシテ助手ヲ使用セサルベカ
ラズ、而シテ助手ナルモノハ尋常一般ノ兒童ヨリ一層智識ノ増進シタルモノナル
ベキコト勿論ナリト雖、蓋實際其ノ業務ニ耐フル程ノ教育アルモノニアラズ。相互
教授法ヲ施行スルノ學校ニ於テハ毎朝十時ニ至ラサレバ開校セズ、八時ヨリ十時
マデハ助手ヲ教授スベキ時間ナリ。此ノ助手教授ハ専ラ速成ヲ主トナシ、其ノ目的
トスル處ハ速ニ教授ノ補助ニ適應スルモノヲ養成セントスルニアリ。くれあるど
曰ハク、斯クノ如キ養成法ニテ果シテ如何ナル教師ヲカ生ゼン、人ニ教フルハ再ビ
自ラ學ブニ異ナラズトハ實ニ明言ナレドモ、智識ヲ他人ノ智覺ニ入レント欲スレ
バ、先ヅ其ノ心裡ニ智識ヲ備ヘサルベカラズト、實ニ至言ト云フベシ。サレバ相互教
授法ニ於テハ教授ハ純然タル器械的性質ヲ帶ブルニ至ルノミナラズ、道徳上ノ點
ヨリ之ヲ論スルモ決シテ可ナリト云フコトヲ得ズ、何トナレバ助手ハ往々高慢自
負ニ流ル、ノ弊害ヲ生ズルハ事實ナレバナリ。但シ相互教授法ノ大功ヲ奏セルハ
疑ヒナシ、是レ主トシテすうばん嬢、さらトん氏等ノ力ニヨルモノナリ、然レドモ今

日ニ於テハ漸々疲頽スルノ有様アリ。

初等教授法ノ状態。

一千八百卅七年大學委員乃れえんハ、佛國初等教授法ノ現状ト題スル書ヲ著シ、詳ニ當時ニ於ケル小學校ノ狀況ヲ述ベタリ、此ノ書ニヨレバ當時能ク讀ミ、能ク書ク教師トテハ殆ト一人モナク、概テ無識ニシテ種々ノ職業ヲ營メルモノタリ、即チ口備アリ、履師アリ、又旅籠屋ヲ事トセルモアリ、自ラ郊外ニ獵セントシテ出ヅレバ妻ヲシテ教師ノ職ヲ代理セシムル等實ニ名狀スベカラサルモノアリキ、教師ト云ヘバ人多クハ之ヲ乞丐視シ、牧畜人ヨリモ一層下等ノモノト思ヒタリ、故ニ懦弱不具ニシテ他ノ業務ニ就クコト能ハザルモノニアラザレバ教職ヲ勤ムルモノナカリキ。佛國ニ於テ革命ノ時ニ方リテ屢初等教育ニ關スルノ布令ヲ發ヒシモ、更ニ其ノ効ナク、一千八百三十三年六月二十八日ノ法律ニヨリテ、始メテ其ノ制ヲ完ウスルニ至レリ。是レ時ノ文部大臣ぎざねノ力ニヨル。此ノ法令ニ於テハ小學教育ヲ分ツテ尋常高等ノ二トナシ、一邑或ハ二三ノ村邑ニテ一學校ヲ開キ、政府ハ教師ヲ任命シ、且ツ俸額ヲ定メ、貧者ハ無料ニテ子弟ノ教授ヲ受ケシムルコトヲ得ルノ制ヲ定

メタリ。而シテぎざねノ殊ニ歎稱スベキハ高等小學校令ノ制定ニアリ。其ノ制ニ曰ハク「高等小學校ノ教科ニハ尋常小學校ノ教科ノ外ニ幾何學初步及其普通適用法、畫線法、測量法、人生ニ直接ノ關係アル理科及博物、唱歌、歴史初步、地理初步、特ニ佛蘭西ノ歴史地理等ヲ包有スベシ。但シ土地ノ狀況ニ從ヒ、適宜之ヲ編成スベキモノナリ」ト。又高等小學校ハ各市并ニ人口六千以上ノ村邑ニ一校ヲ開設スルノ制規ナリシガ、一千八百四十年ノ交ニハ佛國中百六十一ノ高等小學校アリキ。爾後政府ハ漸次ニ冷淡トナリ、人民ノ愚昧ナル善良完美ノ初等教育ヲ棄テ、無益無用ノ羅典語ノ攻脩ヲナサシムルヲ主トセシヨリ、遂ニ充分ノ効果ヲ奏スルニ至ラザリキ。サレドモ是ノ時ヨリ初等教育ハ漸次其ノ歩ヲ進メタリ、是レ之ニ關與シテ其力ヲ效セシモノ益、多キヲ加ヘケレバナリ、一千八百三十三年ノ法律ヲ案ズルニ、尋常小學教育ノ含有スル教科ハ倫理、宗教、讀書、習字、佛語及ビ算術初步、度量衡制等ニテアリキ。又一千八百四十八年六月三十日文部大臣うるのうノ提出セシ條令ヲ案ズルニ、小學科ハ(第一)讀書、習字、佛語初步、算術初步、めえとる制、距離ノ測定法、理科初步、農耕工藝ノ主要ナルモノ、畫線法、唱歌、佛蘭西歴史及地理初步(第二)人類及公民タルモ

ノ、權利義務ニ關スル智識、自由、平等ノ觀念及孝義心ノ發育(第三)衛生法ノ初步及
 躰軀ノ發育ニ關スル運動法等ナリ。宗教々育ノ如キハ各村邑ノ長吏之ヲ施行セザ
 ルベカラズトナセリ。次キニばるてれめ、せん、ひれえる(千八百四十九年四月十日)ノ
 條令ヲ案ズルニ、男兒ノ攻脩スベキ小學科ハ倫理、宗教、國政、讀書、習字、佛語初步、算術
 初步、度量衡制、畫線法、農學、衛生學初步、唱歌、体操術等ニシテ、地方ノ需要及資力ノ如
 何ニヨリ、適宜之ヲ應用シ特ニ或ハ佛國ノ歴史地理ヲ攻修セシムルユトアルヘシ
 ト云フ。

又一千八百五十年三月十五日ノ法律ニ曰ハク、第二十三條小學科ハ倫理、宗教、讀書、
 習字、佛語初步、算術初步、度量衡制、實用算術、史學初步、地理初步、普通人生ニ必要ナル
 理科及博物、農商業初步、衛生法、測量法、平準法、畫線、唱歌、体操等ナリト。

教育學者

十九世紀ノ教育史家トシテ初等教育ノ進歩ヲ記スルニ方リテハ、中等教育及高等
 教育ノ發達ヲモ併セ述べサルベカラズ、然レドモ茲ニ之ヲ詳論スルハ却テ目的外
 ニ涉ルノ恐レアルヲ以テ、單ニ教育學者ノ主義ニ就キテ考察スル所アラントス。

じやこと(一千七百七十一年生 一千八百四十年死)

じやことハ佛國ニテハ格別其ノ名譽ガラザリシモ、却テ外國ニテ其名聲ヲ博シク
 ル佛國教育家ノ一人ナリ。獨逸ノ如キハ特ニ氏ヲ尊重セリ。博士ぢ、つ、つノ言ニ曰ハ
 ク、じやことハ獨逸公共教育ノ改良ヲ獎勵シタルモノニシテ、其讀書教授ノ改正ノ
 如キハ最緊要ノモノナリ云々ト。

じやことノ著セシ「一般教授法」中、臆昧ノ原理少カラズ、例スルニ凡、百ノ智覺ハ均一
 ナリ、何人モ人ニ教フルコトヲ得ベシ、其自知ラザルコトヲモ亦教フルヲ得ベシ、何
 人モ己ヲ教育スルコトヲ得ベシ、凡テノモノハ凡テノモノノ中ニ在リト論スルガ
 如シ、然レドモ妄説ト稱スベキモノ、中ニ眞理ノ元素ナキニ非ズ、假令バ最良ノ教
 授方ハ少年ノ心意ヲシテ自考セシムルニ在リト論ズルノ類是レナリ。

じやことノ有名ナル妄説ハ、凡ベテノモノハ凡ヘテノ物ノ中ニ在リト論ナリ。其
 意ハ羅典語全般ハ一頁ノ羅典語中ニ在リ、音樂ノ全部ハ一樂調ノ中ニ在リ、算術ノ
 全部ハ物數ノ一則中ニ在リトナスモノナリ、妄想モ亦甚シト云フベシ。

をがまじと、こびと(一千七百九十八年生
一千八百五十七年死) 及實驗哲理派。

をねがすど、こゝとハ有名ナル實驗哲理派ノ創立者ナリ、氏ハ其ノ著「實驗哲學」ヲ以テ一ノ教育書ナリトマデ極言セリ。

こゝとハ人道ノ自然及ヒ特異ノ進化ヲ以テ其ノ標準トナセリ、氏ノ論ニ曰ハク「凡ソ一個人ノ教育ハ一般ノ進化ニ應ジテ計考セラルベキモノナリ」ト、又實驗哲理派ノ主義ハ人道進化ノ極點ヲ示ストナスガ故ニ、氏ハ新式教育ハ實驗的タラザルベカラズト論ジテ曰ハク「凡ソ正確ノ腦力ヲ有スルモノハ當今歐洲ニ行ハル、所ノ神學的、性理的、文學的教育ニ代フルニ現在時勢ノ精神ニ適シ、現代文明ノ必要ニ應ズル實驗的教育ヲ以テセザルベカラザル所以ヲ覺ルヤ必セリ」ト。

故ニ氏ハ「理學ノ教授ヲ以テ教育ノ基礎トナスト雖、甚狹隘ナル專門的研究ヲ恐ルルヨリ、實驗哲學」ニ於テ、此ノ弊ヲ矯正セント欲シテ、各理學ノ關係及位格ヲ定メタリ、然レドモ數學ヲ理學教育ノ範圍ヨリ脱セシハ現今ノ定説ト全ク相反スルモノナリ。

こゝとハ又社會ヲ改良セント欲シ、最モ其ノ注意ヲ普通教育ニ向ケ、上流社會ガ貧民ノ教育ヲ意トセサルコトヲ辯難セリ、然レドモ或論者ノ如ク、各人ニ同一様ノ教

育ヲ授クベシトノ妄想ヲ懐キシニアラズ。

こゝとハ「ばんろうぶ」(一千八百七十八年生)

本世紀ニ於ケル宗教書類ノ著述者中、最熱心ニ教育ノ問題ヲ討究セシハ司教「ばんろうぶ」トナス、若シ夫レ氏ノ著書ヲ讀過シ來レバ、其ノ頗教育ニ熱心ナルコトヲ知ルベシト雖、所論ハ基督教主義ノ熱心ニ偏スル傾向アリ、要スルニ該書ハ文壇上ノ争鬪ヲ記述セル一ノ雜誌体ニシテ、學理的著述トシテ見ルニ足ラザルモノナリ、加之文中溫柔ノ意想ヲ欠キ、通篇讀下ノ際人ヲシテ艱難亂擾ノ中ニ在ルノ思ヒアラシム。

然レドモ氏ノ「教育學」三卷ハ頗吾人ニ實益ヲ與フルモノナリ、第一卷ハ教育全般ノコトヲ論ジテ之ヲ三篇ニ分カツ、第一篇ニ於テハ主トシテ教育ノ本質ヲ説キ、心意能力ヲ琢磨シ、之ヲ練リ、之ヲ養ヒ、之ヲ強メ、之ヲ研カザルベカラザル所以ヲ論ジ、第二篇ニハ小兒ノ天質如何ヲ講ジ、特ニ或ハ愛情親切ノ心ヲ以テ之ニ對シ、或ハ教育ノ方法ヲ查シ、宗教、教養、鍛鍊、理學教育等ヲ以テ其主要ナルモノトセリ、鍛鍊トハ支持防禦抑制ノ謂ヒナリ、教育ノ鍛鍊アルハ、恰樹木ノ木皮アルガ如シ、能ク液汁ヲ保

チ之ヲ木心ニ送致スルモノハ獨リ此ノ木皮アルニ由ルト述ベタリ。第三篇ハ「教育家」ト題シ、學校ノ管理者ニ必要ナル資格ニ就キテ論究セシモノナリ。氏ハ書中ニ「兒童ノ位格ニ關スル尊敬及其性質ノ自由」ト題スル一章ヲ設ケ、就中賞與褒典ノ制ヲ難ジ、兒童ヲ賞讃スルトキハ心ニ傲慢ノ氣風ヲ醸シ、大ニ弊害ヲ生ズル所以ヲ切論セリ。要スルニ是レばんろふノ最大誤謬ト云フハ、最小ナル學校ニテ施ス狹隘ナル教育ノ範圍ヲ脱スルコト能ハザリシニ在リ。氏ハ專ラ中等社會ノタメヲ圖リシモノニシテ、普通教育ノ如キハ毫モ之ヲ意トセズ、宗教家ニアラザル教師ヲ好マズ、又特ニ大學制ヲ擯斥セリ。

唯心學派及大學出身者

佛國ノ唯心哲學者ハ概シテ教育ノ理論ニ關シ大ナル注意ヲ灑ギシモノニアラズト雖有名ナルくうざん(一千七百九十二年死)ハ即チ然ラズ、和蘭公共教育「日耳曼公共教育」等ノ書ヲ著シ、能ク他國ノ教育ヲ研究セリ。又ヒゆる、しもんノ著書ハ實際ニ傾キ、專ラ初等教育ニ關スル問題ニ注意セリ。氏ニ「學校論」ノ著アリ。大學出身者ヲ考案セルヨリハ、寧ロ實際ニ從事セシモノナリト雖、彼ノくうるのおぼるをれ、みけるぶれぬる等ノ著書ヨリ甚尊ムベキ眞理ヲ得シコト蓋シ少小ナラズトス。

第四 教育學

當今ニ至ルマデ哲學者輩ハ教育法ヲ組成シ、實理ヲ基本トシテ之ヲ確定スル所以ヲ知ラズ、又教育ノ實行ハ時ノ哲學者ノ思想ニ超越スルヲ得ザリキ。サレバ其ノ制度ノ如キモ頗ル矛盾スルモノアリ。十九世紀ノ哲學者輩ハ多ク是等ノ妄想ヲ整正シ、學術上ノ理論ヲ基本トシ、以テ虛誕妄論ニ陥リタル教育制度ヲ調理センコトヲ勉メタリ。

日耳曼哲學者

獨逸ニ於テハかんと以後多クノ哲學者輩出シ、先人ニ倣ヒテ人心ヲ考窮シ、以テ之ヲ教育ノ理論ニ適應セントセシモノ少ナカラズ。ふーいひて(一千七百六十四年生)ハ「獨乙國民ニ對スル論議」ナル一書ヲ著シ、しれゑるめーける(一千七百六十四年生)ハ「教育論」ヲ著セリ。前者ハ獨逸帝國ヲ恢復スルニ國民教育ノ必要ナル所以ヲ論ジ、後者ハ宗教教育ハ學校ノ施行スベキモノニアラズ、寧ロ家庭及ビ寺院ニ於テ之ヲ掌ルベシト説ケルモノナリ。

へるばると(一千七百七十六年死)モ亦種々ノ教育書ヲ著セリ、氏ハ教育哲學者中ノ
鏘々タルモノナリ、而シテ其ノ特ニ注意スベキハ「一般教育法」教育教科ヲ概畧ノ二
書ニシテ、氏ノ特質ハ其ノ心理說ヲ以テ教育法規ノ基本トナスニアリ、其說ニ由レ
ハ心理學ハ吾人心意ノ機關ニシテ、教學ノ定式ニヨリ理想ノ力ヲ測度スルヲ得ル
モノナリト之ヲ要スルニへるばるとハ夙ニ其友ベすたるちニ學ビ、氏ノ特論ニヨ
リテ以テ一ノ教育說ヲ构建セシモノナリ、
ベねく(一千七百五十四年死)ハ「教育及教授ノ原理」ト題スル書ヲ著セリ、博士でいつつ
ハ之ヲ評シテ心理教育ノ大著述ナリト述べタリ、論スル所へるばるとト大同小異
ナリ、氏ノ教育法ハばうせん師範學校長とれされるノ力ニアリテ廣ク世ニ知ラレ
タリ、

ち、れーす、しみつと(一千八百六十四年死)ノ著セル教育書少ナカラズ、氏ハがるノ骨
相學ヲ信ジ、更ニ之ニ妄誕空想ヲ加ヘタルモノナリ、然レドモ教育ハ獨心理學ノミ
ニ依ルベカラズ、生理學ヲモ亦其基本ト定メサルベカラズト論セシガ如キハ、頗ル
卓見ナリ、

之ヲ要スルニ日耳曼ノ如ク教育哲理ノ大ニ發達セシ國ヲ見ズ、彼ノれつしんぐ、へ
るでる、ぎねて、しるれるノ如キ、有名ナル詩人モ亦教育學ニ關シ高尙ノ理想ヲ與ヘ
シモノ少ナカラズ

英國哲學者

英國ノ哲學ハ實驗的、實利的ニシテ、教育上ニハ巨大ノ影響ヲ與ヘタルモノナリ、蓋
日耳曼理想學派ノ理說ニ依ルヨリハ、ろ、つく、べいんノ如キ精細緻密ノ觀察實驗ヲ
事トスルモノヨリ一層ノ眞理ヲ得タリト云フベシ、彼ノはあばあどすべんさあ、あ
れささんだあべいんノ近著ハ佛國ニ在リテスラ尙莫大ノ効果ヲ奏シタルナリ、

はあばあどすべんさあノ學

吾人ノ達了セント欲スル所ノ目的ヲ明示シ、或ハ學術ヲ組成スル所ノ眞ノ方法ヲ
發見スルヲ以テ足レリトセバ、すべんさあノ「智徳体教育論」ハ教育上完全ナル著書
ト評スルヲ得ベシ、然レドモソノ論旨ヲ案ズルニ、心理學ヲ以テ完全ナル教育上ノ
基礎トナシ、且ツ心理學上ノ法規ヲ確定セントスルニ過ギザルナリ、すべんさあ曰
ハク、凡教育ハ眞正心理學ノ理學ヲ收得スルニ至ラザル以上ハ到底確立スルモノ

ニ非ズト。

凡教育制度中ニハ必倫理學ヲ包有セザルベカラズ、而シテ教育ニ關シテ必須ノ疑題ニアリ、(一)人ノ氣質ヲ造成シ之ニ由テ以テ完美ノ人ヲ生出スベキ教授上ノ科目ハ如何(二)吾人ハ如何ナル方法ニヨリ小兒ニ適應ナルモノヲ速ニ且ツ充分ニ教フルヲ得ルヤ是レナリ、今之ヲ約言スレバ終局ノ目的ト之ヲ致スベキ方便トノ二問題ニシテ、倫理學ハ前者ヲ決シ、心理學ハ後者ヲ明カニストハすべんさわノ其ノ教育ヲ論ズルニ方リテ探レル所ノ趣旨ニシテ、氏ハ其教育論第一章ニ「最モ必要ナル智識ハ如何ノ問題ヲ掲ゲ、完全ナル教育ヲ組成スベキ教科ニ就キテ論究シ、以下ノ三章ニ於テ智徳体ノ教育ヲ論ジ、以テ智覺ヲ練リ、徳性ヲ修メ、軀軀ヲ強壯ニスルノ方策ヲ查窮セリ。

すべんさわハ教育ヲ解釋シテ云ハク「凡ソ教育ハ自己ノタメ又他人ノタメ天性ノ完全ヲ致サント欲シテ施ス所ノモノナリ、……教育ノ理想ナルモノハ吾人一生涯ノタメ充分ノ準備ヲナサシムルニアリ、……如何ニ必要ナリト雖專ラ一種類ノ智識ヲ發育スルコトニ從事シ他ヲ顧ミザルハ宜シカラズ、……之ヲ要スルニ教育ノ

目的トスル所ハ一個人并ニ一社會ノ發達ニ適應ナル智識ヲ成ルベク完全ニ收得セシムルニ在リト。

吾人ハ未此ノ解釋ニ從フヲ得ズ、何トナレバ所論稍高尚ニ過キ、教育ノ全般ニ適應セザレバナリ、僅々少數ノ人士ニノミ適スベキモ、一般普通教育ニ適用セラルベキニ非ズ、今日人類ノ狀態社會ノ實狀ヨリ考フルニ、高尚其度ニ過グルノ論ト云フベシ。

すべんさわハ現在行ハル、教育ハ必要ヲ後ニシ、娛樂修飾ヲ先ニスルノ弊アル旨ヲ論難セリ、今衣服ノ變遷上ヨリ之ヲ論ゼンニ、美飾ハ常ニ實用ニ先タツガ如ク、教育ニ於テモ亦外形ノ修習ハ必須ノ教科ニ先ダチ、特ニ女子ノ如キハ純然タル裝飾ニ從フモノナリトシテ曰ハク「彼ノをりの印度人ガ裝飾或ハ文身スルト等シク、吾國ノ兒童輩ハ專ラ羅典語ヲ講習ス、何トナレバ羅典語ハ紳士教育ノ一部分ナレバナリト、氏ハ教育上實用ナキ語學ヲ學ビテ雅致ヲ事トスルヲ非難シ、歴史ニ於テモ戰爭ノ年月日、王侯ノ死生ノ如キ些事ニ拘泥スベカラズト云ヘリ。實利トハ何ゾ、幸福ニ及ボス影響ヲ云フ、幸福トハ單ニ吾人ヲシテ一事一物ヲ満足

セシムルニ止マラズ、進ンデ全般ニ及ボシ、完備ニシテ大成ナル最大生活ヲ具備スルモノナリトハすべんさわノ主張スル教育ノ職掌ナリ。

完全無欠ナル人生ハ諸種ノ活動力ヲ有シ、其必要ノ度ニ從ヒ互ニ相連結ヲ持スルモノナリトシテ氏ハ此ノ活動力ヲ五種ニ類別セリ。

- (一) 自存ヲ保ツ所ノ活動力。
 - (二) 間接ニ軀軀ノ福祉ヲ増進スル所ノ活動力、即生業其他種々ノ職業ニヨリ生存ニ必要ナル材料ヲ收得シ、生産スルモノ是レナリ。
 - (三) 家事ヲ辨ズルノ活動力即チ子女ヲ養ヒ之ヲ教育スルコト是レナリ。
 - (四) 社會及ビ政事上ニ關スルノ活動力。
 - (五) 審美學ニ關スル活動力即チ閑日ヲ得テ文學、技術ヲ講習スルコト是レナリ。
- 氏ハ各種ノ活動力中其ノ首位ヲ占ムベキモノニシテ、吾人之ニ由テ道德心ヲ發育スルニ足ルモノヲ最後ニ置キタルハ欠點ノ一ナリ。而シテ其第二ト第三ノ間ニ吾人ノ徳性ヲ織成スル良心、道德心、意志ノ活動力ヲ加入スルヲ可トス。
- 氏以爲ラク教育ノ職掌如何ヲ知ルハ蓋シ易々ノコトナリ、自然ノ道ニ從ヒ、精細ニ

吾人々類ノ作用ヲ區分シ、之ニ從テ教科ヲ定メ、以テ人生ノ活路ヲ歩スルニ足ルノ智識ヲ練磨セシメ、次ニ一家一國ニ對スル義務ヲ了セシメ、終ハリニ技術ノ功妙ヲ極メシムルニ在リ。

人生ヲ種々ノ段階ニ分ツトキハ智識ガ各段階ニ屬スルヤヲ查稽スルコト必要ナリトテ氏ハ理學ヲ以テ教育全般ノ基礎トナサント欲セリ。

氏ハ又熱心ニ兩親特ニ母タルモノヲ開發シ、之ヲシテ其ノ義務職分ヲ了セシメ、心軀ニ關スル天然ノ規律ニ從テ兒童ヲ教養セシムベシ、子孫ヲシテ無智昧ノ慣習想像ニ制セシメ、乳母祖母ノ愚癡偏私ニ全委スルハ誠ニ慨歎ノ至リハリ、女子ノ如キ衛生ノ規律、心意現象ノ如何ヲ知ラズ、道德ノ感情、軀軀ノ組織等ヲ知ラズシテ小兒ヲ教養スルハ頗ル危険ノコトナリト述ブ。

すべんさわノ意ヲ知得スルニ最モ苦ム所以ハ、理學ヲ以テ美育ノ基礎トナスニ在リ、其ノ說ニ曰ハク「音樂組織ノ豐富ナラサルハ眞理ヲ欠クニ在リ、眞理ヲ欠クハ學術ヲ欠クニ起因スルナリ」ト、其ノ言度ニ過グ。人若シ幾何學者タラハ尙能ク文學者又技術家タルヲ得ベキヤ、蓋シ文明ノ花ト稱セラル、所ノ技術ヲ充分ニ攻修スル

ニハ藝能天才ノ外ニ多年ノ熟練ヲ要スルニ非ズヤ、之ヲ一言スレバ學理ニヨリテ得ル所ノ注意心ヨリモ一層精緻ノ注意ヲ要スルヤ必セリ。

氏以爲ラシ理學ノ斷定、記憶、推理ノ諸能力ヲ發育スルヤ言語ノ攻修ニ勝ルト、是レ尙可ナリ、然レドモ理學ニヨリテ徳性ヲ研磨セシムベシトスルニ至リテハ未必シモ然リト云フコトヲ得ズ。彼ノ意志ノ教育ノ如キ、果シテ理學ニヨリテ之ヲ致スコトヲ得ベキヤ、甚疑ハシ。加之ナラズせんさわ其人モ亦之ヲ疑フモノニシテ、其近著ニ係ル一書ニ、書籍及ビ天然ニ對スル信仰ハ現在社會迷妄ノ一ナリト云ヘリ。

抑、教育法ニ於テハ理論上必須ノ教科々目ヲ制定スルニ止マラズ、之ヲ人心ニ指示シ以テ實利ヲ收ムルガタメ、其實施ノ方法ヲモ究ムベキモノナリ。ずんべさわハ教育ハ進化ノ思想ニ指導セラレベキモノト説ク。ソハ一定ノ規律ニ從ヒ、自然ニ受得シ、或ハ遺傳ニヨリテ得タル萌芽ノ勢力ヲ漸次序ヲ追フテ發育セシムルノ謂ヒナリ。

すべんさわハ心意進化ノ規律ヲ確定スルニ非ザレハ教育ノ原理ハ決シテ精密ニ解明セラレサルベシト信ジ、之ガ規律ヲ發見センコトヲ勉メタリ。氏云フ吾人ノ心

意ハ單純ヨリ複雑ニ進ミ、不定ヨリ確定ニ赴キ、形而下ヨリ形而上ニ向ヒ、迷妄ヨリ實理ニ達スルモノニシテ、一個人發達ノ順序ハ人類發達ノ順序ニ均ク、智覺ハ自發見スル所ノモノニヨリ、漸次増進ス。要スルニ大ニ學生ヲ益スル所ノモノハ之ヲ勵マシ之ヲ娛マシムルノ教科ナリ是ノ故ニ教育家タルモノハ天化ニ逆ハズシテ徐徐發育ノ程度ニ從ヒ、着々其歩ヲ進メ、之ヲ制御シ之ヲ壓抑スルコトナク、心意ノ進化ニ伴フテ之ヲ支持シ、之ヲ獎勵スベキナリト。

次ギニ氏ハ自家教育ノ必要ヲ論シテ曰ク、凡ソ教育ハ自己發育ノ法ヲ充分ニ獎勵セサルベカラズ、兒童ヲシテ自ラ之ヲ説明了解シ、自ラ證論論決セシメ、成ルベク少シク之ニ教へ、成ルベク多ク自ラ發明セシムベシ、蓋人類ノ進歩スルハ主トシテ此自發ノ法ニヨルモノナリ、……尋常ノ教育法ニヨリテ養成セラレタル人ハ、兒童ヲシテ自ラ己レノ師タラシムルハ甚覺束ナキコトナリト思フベシト雖、……吾人ハ常ニ人ノ輔ケヲ得ズシテ外部ノ妨碍物ト相争フコトヲ詳ニセバ、尋常ノ能力ヲ有スル學生ナレバ正當ノ秩序ニ排列セル疑問ニ對シ、能ク其ノ困難ニ打ち勝チテ之ヲ解曉スルコトヲ得ル所以ヲ了スルニ至ルベシト。

氏ハばるめるすどん卿又るうそらノ如ク、兒童ハ生レナガラニシテ善ナリト論ズルモノニアラズ、寧反對ノ説ヲ持シ、兒童ハ野蠻ニ類シ、其容貌ハ其徳性ト等シク大ニ野蠻人ニ類スル所アリトナス。要スルニ氏ハ當時英國諸學校ニ於ケル鍛鍊法ヲ非難シ、兒童ヲシテ暴勢ニ壓服セシムルヲ欲セズ、原因ト結果ノ關係ヲ示シテ之ヲ壓抑スルノ理由及ビ其ノ便益ヲ了セシメントスルニアリ。故ニ眞ノ道德鍛鍊ト稱スルモノニ於テハ、兒童ヲシテ天然ノ狀勢ニ放任セシメ、自然ノ結果ニヨリテ以テ其ノ誤謬ノアル所ヲ發露セシムルヲ要スト説キ、又勉メテ人爲ノ責罰ヲ避ケ、唯其必須ノ結果トナル所ノ不便艱難ニ遭遇セシムルヲ可トスト主張ス。蓋シ人爲ノ責罰ニ代フルニ天然ノ教科ヲ用フルノ制ハ、吾人ニ最大ノ利便ヲ與フルモノナリ。加フルニ人爲ノ責罰ハ人ノ意中ヨリ發スルガ故ニ、兒童ノ其ノ義理ヲ解得セザルトキハ大ニ之ニ反抗スルコトナキニ非ズト雖、天然ノ規律ニ依ルコトトスレバ、此ノ憂ナキコト疑ヒナシ。要スルニすべん、さわノ原則ハ頗卓絶ナリト雖、之ヲ實地ニ活用スルニ至リテハ恐ラクハ其ノ結果ノ意外ニ出ヅルモノアラン。特ニ彼ノ天然責罰ノ如キハ、頗ル暴戾ニ涉リ、他日救フベカラザルノ損害ヲ蒙ラシムルノ危険アリ。

智育德育共ニ成ルベク自然ニ近邇スルヲ以テ最良トストハるうそらノ主論ニシテ、すべん、さわノ實施セシ所ナルガ、すべん、さわノ教育法モ亦大ニ之ニ因レリ。即智育ヲ論ジテ感覺ハ自然ノ先導者ナレバ、吾人之ニ隨從スルモ敢テ危険ニ陥ルノ憂ヘナキ所以ヲ論ジテ曰ハク、幸ニ教育上自存ヲ維持スルニ必須ナルモノハ盡ク完備セリ、是レ吾人ノ誤謬ニ放任スベカラザルヲ以テ天自ラ執リテ之ヲ管掌セリト。氏兒童ヲシテ自ラ活動シ、体格ノ操練ヲナサシムルノ天質ヲ以テ、身体幸福ノ基本トナシ、此ノ天質ヲ壓スルハ身体ノ發育上神聖ニ組成セラレタリシ方便ヲ妨グルニ異ナラズト論ゼリ。

すべん、さわハ空想ノ偏倚ニ陥ラサル論者ナルガ故ニ、躰育ヲ論ズルニモ亦頗ル活潑ヲ致セリ。氏其ノ説ニ曰フ、世界ノ歴史ニ徴シテ之ヲ考フルニ、衛生ノ充分ナル人民ハ常ニ活潑強壯ナル所以ヲ知ルト。又曰ハク、小兒ノ實際的教育ニ關スル欠點種種アリ、食物ノ不十分、衣服ノ不完全、躰操ノ不足、心力使用ノ過度是レナリト。すべん、さわハ現在ノ教育制度ニ於テ智育ヲ專トシ、躰育ヲ忽諸ニ付スルヲ痛論シテ、健康ハ吾人義務ノ一部ニシテ、衛生義務ナルモノ、アル所以ヲ論述セリ。

是レニ由リテ之ヲ觀ルニ、氏ノ教育主義ハ教育上有名ナル改革者ノ論議ト協合スル所アリ、即チすべんさわノ説ハ彼ノベすたる、つちガすたんつニ於テ實行セシ所ニシテ、其ノ能ク莫大ノ効果ヲ奏シタル所以ハ會テモべんさわノ云ヘルガ如ク第一兒童ハ如何ナル種類ノ教授ヲ必要トスルヤノ問題ニ注意シ、又已ニ其ノ收得シタル新智識ヲ伴生スルコトニ盡力シタルニ因ル。概スルニすべんさわノ教育書ハ教育家ノ注意ヲ惹起スルニ足ルモノニシテ、其ノ立論ノ周到快活ナル、其ノ所説ノ實利洪益アル、此ノ書ノ如キハ實ニ稀ナリト云フベシ。然レドモ之ヲ讀下スルニハ意ヲ用ヒザルベカラズ、氏ハ非凡ノ哲學者ナルモ、時ニ或ハ精緻細密ヲ欠ク所アルヲ以テ、注意シテ其ノ所論ヲ審査スルヲ要ス。

われきさんだわ、べいん及其ノ教育學。

べいんノ「教育學」ハすべんさわノ著書ノ如ク有名ナラスト雖、立論ノ周到緻密ナル亦頗ル賞歎スベキモノアリ。想像ノ美及ビ原造的ナルコト、又熱心ナルコトニ關シテハべいんニ駕スルモノ尠カラズト雖、其ノ議論ノ精緻ナル、觀察ノ豊裕ナル一事ニ至リテハ氏ト比肩セラルベキモノアルヲ見ズ。今其書ヲ評スレバ恰モ注意周到

ナル護衛兵ノ勝軍ニ殿スルガ如ク、確然タル軍制ヲ守リ、英邁ナル大將ノ軍略上得タル地位ヲ固ク維持スルモノナリ。之ヲ要スルニすべんさわハ主義ヲ再思熟考シテ發意シタルモノニ外ナラズ。

べいんハ「教育學」ヲ分チテ三篇トナシ、一ニハ心理學上ノ根據ヲ説キ、二ニハ方法ヲ講ジ、三ニハ近代ノ教育ヲ論ジタリ。

べいんハ第一智能ハ如何ナル順序ニ從テ發達スルカ、并ニ此ノ順序ハ如何ナル結果ヲ教科ノ排列上ニ與フルヤヲ攻究セリ、是レ心理上ノ議論ナリ。次ニ氏ハ論理上ノ順序即教科ト其教科ノ一部分トノ間ニ存スル關係ヲ明カニセリ。氏此ノ前提ヲ置キテ後其主要ナル問題即教授ノ方法ヲ解説シ、丁寧反復讀書ノ第一材料タルベキ客觀教科ヲ解論シ、之ヲ以テ教授上最モ勝レタルモノトナシ、之ガ實行ヲ獎勵シ、次ニ歴史、地理、理學、言語ニ關スル教育制ヲ明カニセリ。氏ハ又最後ノ第三篇ニ於テハ專ラ中等教育ニ注意シ、新式ノ方法ヲ發明セリ。

心意ノ發達及ビ教科ノ配置ニ關スルべいんノ所論ハすべんさわノ主義ニ從ヘルモノナリ。氏曰ハク「觀察ハ思考ニ先チ、形而下ハ形而上ニ先ツモノナリ」ト。氏又以爲

ラク、教育ニ於ケル正當ノ順序ハ單純ヨリ複雑ニ、特異ヨリ全般ニ、不定ヨリ確定ニ迷妄ヨリ正理ニ、分折ヨリ概括ニ、簡畧ヨリ精緻ニ、有形的ヨリ無形的ニ進行スルニアルベシ、是レ教育ノ理想的順序ナリト雖、實際ニ於テハ百害ノ四方ヨリ來ルガタメニ、之ヲ紊亂スルモノナリト。

中等教育ニ關シベインノ論ズル所ハ右ニ述ブル觀察ノ結果ニシテ、少年者ノ智育ハ第一理學、第二ひゆうまにていす(羅典語希臘語及詩文等ヲ云フ)、第三修辭國文學ナルベシト論ジ、理學ヲ分テ二類トナセリ、其ノ一類ハ算術、幾何、代數、物理學、化學、生理學、心理學ニシテ、第二類ハ博物學是レナリ。

次ニひゆうまにていすノ中ニハ古代語學ヲ編入シテ、今日活用セラル、語學ヲ除キ、尙倫理學、歷史、社會學、經濟學、法律及ビ一般文學ノ如キモノヲ加入セリ。氏ノ云フ所ニヨレバ、以上論ズル所教科ヲ六ケ年ヲ以テ卒業ノ時期ト定ムベク、一週凡ソ二三時間ヅ、各科ヲ攻習セシムベシ、又各教科ハ皆等シク必須ノモノナリト。要スルニベインハ凡百ノ教科中最モ理學ニ重キヲ置クモノナリ。

ベインハ大ニ文學ヲ非難シテ吾人ノ心裏ニ卑劣ノ慣習ヲ與フルモノナリト云ヘ

リト雖、彼ノ精神ヲ卑劣ナラシムル所ノ責ヲ負フモノハ、却テ理學ニアラズヤ、但斯ク云ヘバトテ智育ノ教科中ヨリ理學ヲ排除スベシト云フニ非ズ吾人ハベインノ論ズルガ如ク理學ハ真理ノ根原心意鍛鍊ノ要具ナル所以ヲ信ジ、之ヲ攻修スルキハ獨リ宇宙ニ關スル確實ノ智識ヲ收得スルノミナラズ、進ンデ氣力及ビ精緻ノ心ヲ得ル所以ヲ疑ハザルモノナリ、然リト雖吾人ノ心意ヲ裕ニシ、之ヲ訓練スルニ當リ、斯クノ如ク必要ニシテ斯クノ如ク欠クベカラザルノ理學ハ、之ヲ育成スルニ於テモ等シク最良ノ方便タルヤ否ヤハ一ノ疑問ナリ、蓋教育家タルモノハ彼ノ農夫ノ耕種スルガ如キヲ以テ満足スベカラズ、其事業ハ一層廣濶ナルベシ、彼ノ理學ノ如キハ吾人ノ田野ニ蒔カントル所ノ種子ニシテ、之ヲ培養豊裕ナラシムルモノニアラザルナリ。

ベインハるつくと等シク事實ヲ離レテ智力ナルモノナシト唱フルモノナリ、故ニ智能ノ教育ト稱スルモノナク記憶想像ノ如キハ單ニ言語ニ止マルトナス、故ニ其最良ノ教育ト云フハ事實ニヨリテ各種ノ智識ヲ心裡ニ蓄積スルニ在リテ、彼ノ靈魂ノ中ニ智覺ノ光輝ヲ發揚スルモノニハ非ザルナリ。

べいんノ「教育學」中ニハ往々實利主義ナルモノヲ認ム、例ヘバ言語ノ如キ通常吾人ノ多ク使用スルモノヲ攻習セシムベシ、理學ノ如キモ世人ノ實用ニ供セラル、部分ノミヲ攻修セシムベシト云ヒ、其ノ甚シキニ至リテハ德育ニ在リテモ尙此ノ主義ニ依ル所ナカルベカラズトナス。

上來説キ來レルガ如ク、べいんノ教育主義ニ關シ非難スベキ點ナキニアラズト雖之ガタメ氏ノ教育家ノ効績ヲ湮滅スベキニアラズ、純粹ノ理論トシテ之ヲ見ルモ氏ノ「教育家」ハ最モ有益ナルモノナリ、何トナレバ審ニ思想ノ進路ヲ示スヲ以テナリ。

亞米利加ノ教育家、ちやんぶん(一千七百八十二年生、一千八百四十二年死)

英國教育一般ノ誤謬ト云フベキハ、貴族的ニ偏スルニ在リ、彼ノろ、つく、すべんさあ、べいんノ如キモ、皆紳士教育ヲ論議セシモノニシテ、平民的教育即チ普通教育説ノ元素ハ之ヲ米ノち、やんにんぐ、はねれすまんノ著書ニ見ルヲ得ルノミ。

ち、やんにんぐハゆめてりあん派ノ教師ニシテ、宗教思想ニ哲理ヲ交ヘタルモノナリ、氏ノ主ナル著述ハ一千八百三十八年ばすどん府ニ於テナセシ演説集ニシテ、其

ノ目的トセシ所ハ專勞働社會ヲ改良セントスルニアリ、氏曰フ、人或ハ説ヲナシテ勞働者ニ時トカトヲ盡クシテ其ノ心意ヲ高尙ナラシムルコトヲ獎勵スルハ、之ヲシテ飢渴ニ陥ラシメ、大ニ國力ヲ萎靡スベシト論ズルモノアリト雖余ハ心意ノ勢力ト効能トヲ信ズルガ故ニ、此ノ反對論ノタメ決シテ失望スルモノニ非ザルナリト。又曰ハク、宇宙間ノ最モ高尙ナル勢力ハ所謂心意ニシテ、此ノ力ハ天地ヲ創造シ、荒地ヲ變ジテ沃野トナシ、相互ノ要求ヲ交通スルガタメ遠隔ノ各國ヲ連結セリ。人類ガ万物ノ靈トシテ世界ヲ支配スルハ技術、熟練、并ニ智徳ノ力ニ由ルモノニシテ、暴力ニ因ルニアラズ、彼ノ物件ヲ制抑スルモノハ心意ナリトスレバ、一般人民ノ心意ヲ興起スルヲ以テ彼等ヲ貧クシ、彼等ヲ饑ヘシムルモノナリト畏懼ヲ懷クハ、恰モ幻影ヲ見テ戰慄スルニ異ナラズト

はねれす、まん(一千七百九十六年生、一千八百五十年死)

はねれす、まんハ教育哲學者ニアラズ、自國ノ教育ヲ改良獎勵セシ一ノ政事家ニ過ギズ、其ノまさら、ゆせ、つづ州ノ教育局長タリシトキ、學校ヲ開キ、書籍館ヲ起シ、又種々ノ論文ヲ公ニセリ、其ノ論說中最モ有名ナルハ、共和政治ニ於ケル教育ノ必要ト

題スルモノ是レナリ。氏ノ説ニ曰ハク、吾人何レノ時ニ於テカ幼者ニ就キテ考察スベキカ、予ハ常ニ土中ニ埋ムル所ノ種子ニ注意スルモ、幼少テフ太陽ノ没スルマデハ人間ノ靈魂ニ關與スベカラズ。予ガ力ニシテ果シテ能ク之ヲナシ得バ、予ハ恰モ耕圃ニ小麥ヲ蒔クガ如ク全地球ニ書籍ヲ散布セント欲スベシト。氏又共和國ニ於ケル德育ノ必要ヲ論ジテ曰ハク、人民ノ一タビ受ケタル教育ハ益之ヲ増進スルコトヲ勉メザルベカラズ、教フルニ從ヒ益新心力ヲ興起スルガ故ニ、此等智徳ノ諸力ハ宜ク之ヲ調整スベシ、是レ一タビ動き、其ノ事ヲ終フレバ直ニ靜止スルガ如キ彼ノ器械力ト異ナルヲ以テナリ。此等ノ力ハ生活及ビ進歩ノ元氣ヲ具備シ、何モノモ其進歩ヲ妨害スルヲ得ザル靈力タリト。

結論。

吾人ハすべんさあ、べいん、ちやんにんぐ、まん其他學者輩ノ事業ニ由テ現在教育上ノ必要ヲ充分ニ解センコトヲ望ムモノナリ。此等教育上ノ問題ヲ解説スルコトハ國ノ安寧及ビ名譽ヲ維持スルニ最モ必要ナルコト疑ヒヲ要セズ。或ハ曰ハン未來ハ得テ考フベカラズ、吾人ノ命運ハ前途知ルベカラズト吾人ハ之ヲ信ズル能ハズ、

何トナレバ之ヲ轉ジテ他ノ方針ヲ取ラシムルハ吾人ノ意中ニ在レバナリ。乃チ人民ノ未來ヲ定ムベキ智育、德育ヲ獎勵スルコト是レナリ。抑改良進歩ト稱スルモノハ一時ノ急進變移ヲ云フニアラズ、万事漸進ノ規律ニ從ヒ、徐ニ之ヲ改革スルヲ要ス、恰兒童ノ漸々年ヲ追フテ生長スルガ如ク教育モ亦徐々正確ヲ旨トシ、惡習ヨリ徳ニ進マシメ、不善ヨリ善ニ向ハシメ、逐次開進セザルベカラザルナリ。

進化論者或ハ云ハン他日必ず吾人ニ勝ル所ノ人種ヲ現出スベシト。吾人ハ自然淘汰ニヨリテ斯カル想像的ノ人種ヲ現出スベシト信ズル能ハズ、然レドモ又精力心力共ニ現時ノ吾人ニ一層超越スル所ノ人種ヲ生出スル確實ナル一法アリ、ソハ思考ト道理ヲ基本トシテ人ノ氣運ニ適應スル教育ヲ組制スルコトナリ。而シテ其教育ナルモノハ人心ヲ發育シ、之ヲシテ理想ニ近接セシムルモノタラザルベカラズ。此ノ教育タル審ニ兒童ノ心理ヲ究メ因テ其結果ヲ誘致スルニアラサレバ、完全ナルヲ得ベカラズ。

すべんさあ著「教育論」ノ批評。

意ヲ用ヒ、眞理ヲ尊重スルノ目的ヲ以テ之ヲ讀過スレバ、すべんさあノ「教育論」ハ頗

精確ナリ、然レドモゑみゐる以後、恐ラクハ此書ノ如ク其辭令ニ巧ミナル、哲理ノ虚飾ニ由リテ浮想ノ讀者ヲ欺クモノハアラザルベシ。今其ノ誤謬ノ主タルモノヲ列記セン。

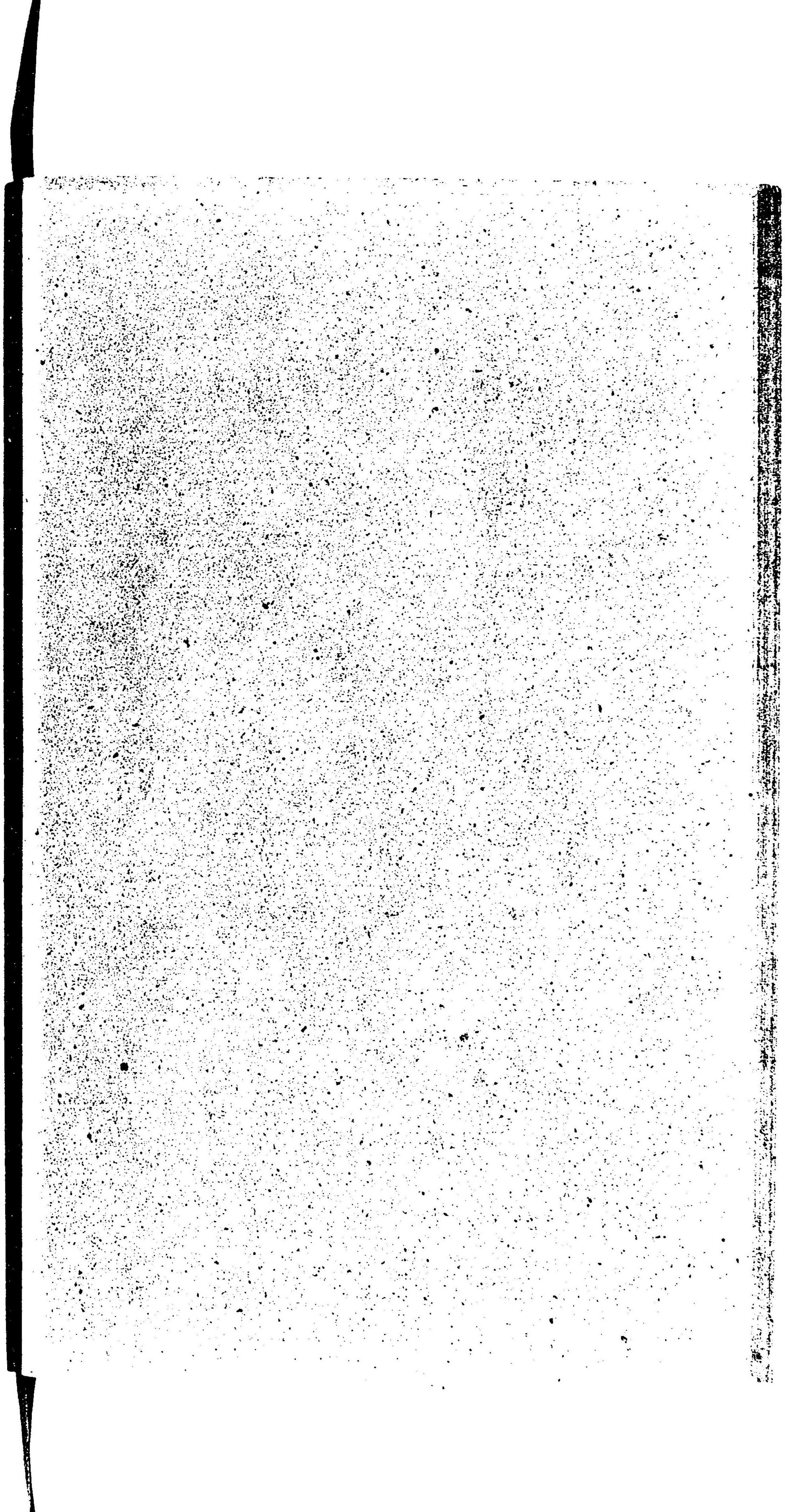
- (一) すべんさあハ智識ノ實價ニ關シ間接ト直接トヲ區分セズ、吾人ハ固ヨリ理學ハ人類ニ欠クベガラズトノ説ヲ信ズルモノナリト雖、各人必ズシモ之ヲ練習スベシト云フニ至リテハ未遽ニ同意スルコト能ハザルナリ。
- (二) 教育ノ職掌ヲ單ニ人生々活ニ適應セシムルニ限ラントスルハ、其思考甚卑シ、教育ノ尤高尙ナル義務ハ人ヲシテ先人ニ凌駕セシムルニ在リ。
- (三) 實際ニ明カナル教師ハ、最モ能ク實用ニ適スル教科ハ却テ鍛鍊ニハ適セザル所以ナリ。然ルニ此ノ点ニ關シすべんさあハ「天然ノ佳麗ナル經濟」ト稱スルヨリハ更ニ良好ナル論據ヲ有セズ。
- (四) すべんさあハ人ヲ以テ一ノ器械ト見做スモノナリ、然レドモ眞ノ自由教育ト稱スルモノハ必先ヅ人ヲ養成シ、然ル後之ガ機械ヲ鍛鍊スルニ在リ。
- (五) すべんさあノこんでやく、こむとノ説ヲ採用シ、一己人ノ教育ハ密ニ人類進化ノ

順序ニ從フベシト云フハ、實際ニ適應セス、何トナレバ彼ノ遺傳ト稱スル進歩上最モ必要ナル元素ヲ忽ニスルヲ以テナリ。

(六) 教育事業上彼ノ天然ニ放任スルコトハ頗ル迷誤ナリ、理學ハ夙ニ此ノ邪説ヲ排除セリ。

(七) すべんさあガ德育ノ基礎トセントスル原因結果ノ主義ハ僅少ノ場合ニ適用セラル、モノニシテ、万一完全ニ之ヲ應用ストスルモ人道ニ背反セルモノタリ。

第十九世紀ノ教育終



050618-000-9

370.4-D18K

第十九世紀之教育

金港堂

M26

BEA-0902

